

世界史の中の中央アジア

小松久男（東京外国語大学）

1. アレクサンドロス大王の中央アジア遠征（BC 329-327 年）

バクトリアとソグディアナに侵攻：破壊と建設（最果てのアレクサンドリア）

アレクサンドロス伝説として展開：超人的な英雄、理想的な君主、参詣すべき聖者

イスラーム世界ではイस्कンダル=Dhū al-Qarnayn（二本角）：コーランにも登場

*E. ルトヴェラゼ（帯谷知可訳）『アレクサンドロス東征を掘る』NHK ブックス、
2006 年

2. 草原の覇者、古代騎馬遊牧民の遺産

匈奴の冒頓^{ぼくとつ}単干 = ba γ atur / batur → bahādur (P. T.), богатырь (R) : 英雄・勇士
君主号の系譜：突厥・ウイグルなどの可汗、カガン、ハカン、カン → ハン

*城田俊『ことばの道—もう一つのシルクロード』大修館書店、1987 年

遊牧民に伝わる英雄叙事詩：集団の記憶や価値観をおさめた口承の文芸

*坂井弘紀『アルパムス・バトゥルーテュルク諸民族英雄叙事詩』平凡社・東洋文庫、
2015 年

3. ソグド人：シルクロードに雄飛した商人・外交官

テュルク遊牧帝国と提携して中国（隋・唐）やビザンツ帝国と通商

西突厥の滅亡（657 年）後は、唐の羈縻支配と南からのアラブ・ムスリム軍の脅威
アフラシアブ遺跡（サマルカンド）の壁画

中国内地（華北）に定住したソグド人：中国各地で墓や墓誌が出土

同族婚・高度の芸芸集団・官僚（馬政）・軍人：唐文化への影響

ソグド系突厥の節度使 安祿山（705-757）roxšan

*森安孝夫『シルクロードと唐帝国』興亡の世界史 5，講談社、2007 年

*森部豊『安祿山—「安史の乱」を起こしたソグド人』山川出版社、2013 年

4. イスラーム文明に対する中央アジア出身者の貢献

預言者ムハンマドの言行録=ハディースの集成（9 世紀後半に集中）：第二の啓典

ブハーリー（870 年没）：『真正伝承集』の編纂、60 万から 2672 を厳選

神学・哲学・法学・医学・数学など

フワーリズミー（ホラズム、9 世紀前半）：数学、天文学

al-Khwārizmī → ラテン語名 Algorismus → algorism（計算の手順）

*牧野信也訳『ハディース—イスラーム伝承集成』中央公論社、1993-94 年

*濱田正美『中央アジアのイスラーム』山川出版社、2008 年

5. 世界史を動かしたテュルク揺籃の地、中央アジアの大草原
イスラーム化したテュルクが建設した最初の王朝：カラハン朝
マフムード・カーシュガリー(生没年不詳)の『テュルク諸語集成』
1077年にバグダードで完成したテュルク語・アラビア語辞典
序文に引用されたハディース「テュルク語を学べ、彼らの支配は長く続くから」
セルジューク朝(1038-1194)、オスマン帝国(1300頃-1922)
テュルク系諸集団の言語、文学、歴史、社会、生活などに関する情報を伝える
*小松久男編『テュルクを知る 61章』明石書店、2016年
6. ティムール朝の時代(1370-1507)：首都サマルカンドは2001年、世界遺産に登録
遊牧民の軍事力と定住民の経済力の結合による大帝国の建設
建設事業：豊かな財力と強制移住による技術力の集中
ウルグ・ベク(1447-49)の天文台と天文表(1655年ラテン語抄訳がイギリスで刊行)
継承国家としてのインドのムガル朝(1526-1858)
バーブル(1483-1530、父はティムール朝の君主、母はチンギス・ハンの血統)
*久保一之『ティムールー草原とオアシスの覇者』山川出版社、2014年
*間野英二『バーブルームガル帝国の創設者』山川出版社、2013年
*バーブル(間野英二訳注)『バーブル・ナーマームガル帝国創設者の回想録』平凡社・東洋文庫、2014-15年
7. 「ウスマーンのコーラン」：近現代の激動の中での流転
第3代カリフ、ウスマーンが暗殺時(656年)に読んでいたというコーランの古写本
イラクに遠征したティムールが戦利品として持ち帰ったという伝承
サマルカンドのホージャ・アフラール・モスクに保管
ロシア軍によるサマルカンド占領の翌年(1869年)、総督カウフマン将軍に譲渡
将軍は首都サンクトペテルブルクの帝立公共図書館に寄贈
1917年ロシア革命の直後、レーニンは中央アジアのムスリム組織に返還
ソ連時代はタシケントの歴史博物館に収蔵
ペレストロイカ期の1989年3月、ムスリム宗務局に移管
*小松久男『激動の中のイスラームー中央アジア近現代史』山川出版社、2014年